

“新年のご挨拶”

会長・理事 井手 祐之

海陸各方面でご活躍の会員並びに日頃ご支援戴いて居ります関係先の皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、北海道地方を襲った胆振東部地震に依る大規模停電と厚真町地域の山崩れ、台風7号に依る集中豪雨で岡山県真備町の土砂災害、台風21号に伴う高潮で関西空港水没、8月には連日の猛暑、等々の自然災害の脅威にさらされた年でした。当該地方で被害に会われた方々には心からお見舞い申し上げます。

北海道胆振東部地震では苫小牧東の火力発電所の高出力発電機が緊急停止し、世間一般では余り聞かれぬブラックアウトが発生しました。船の世界では聞きなれた言葉ですが、機関士としては起こしてはならない現象であり、特に沿岸航行時や港内操船時には最大限の注意を払いながら機関プラントを運航されていることと思います。

さて、新しい年を迎えて船の世界では種々改革改変が行われ実行に移す年となります。

特に環境問題は喫緊の課題であり、IMOのMEPCで船舶から排出する硫黄酸化物のグローバル規制が2020年1月から全世界的に適用開始となり、当面の手段としては排気ガススクラバーの設置か、硫黄分0.5%以下の適合油の使用が主流となって運用されると見込まれますが、運用開始となれば種々不具合も出てくると思われ、スクラバーについては洗浄後のスートファイア発生や洗浄廃水の処理で色々工夫しなければならないと思われ、又適合油使用に関しては統一された性状基準が未整備であり、補油港毎に性状の異なる油を船上で管理する苦勞が目に見えてきます。

併せて、自動運航船についてもIMOで協議が開始され日本でも種々作業部会が立ち上げ

られており、現場技術を熟知する船舶機関士の見解を求められ、如何に対応すべきか示さねばならないであろうと思われま

す。とは言え、我々マリンエンジニアは、安全運航・燃費改善・環境対策を常に頭において日々の業務

をこなし、運航遅延、海難事故に繋がる機関故障の絶無は現場機関士の命題です。

当協会の事業計画は、船用機関技術等に関する調査研究事業、故障情報活用に関する調査研究事業、船用機関技術及び船舶機関士に関する情報発信事業、機関長士の労務問題に関する調査研究事業、その他関連事業を目標として掲げており次年度も継続して行く所存です。これら各事業の完遂達成には、会員諸兄及び関係先各位のご理解とご協力が必須であります。

特に当協会が永年続けております「故障事例の収集と分析業務」が、会員・船社・関係先に認知され利用されるには十分な情報量が必要なことは自明の理であり、アップデートな情報収集が不可欠であることから、今後とも関係各位のご協力をお願いいたします。

併せて、当協会の運営に関して事務の合理化を図るべく会員データ管理の外出し等、従来の手法から1歩進めた形で種々実行して行きたいと考えて居ります。又、年々改良を重ね使い易くなった当協会のホームページを是非ご覧戴き、当協会への要望やご意見、斬新なアイデアの提案を期待いたします。

最後に会員諸兄と関係各位のご多幸と船舶のご安航をお祈りし新年の挨拶といたします。

